

平成22年6月15日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
 研究期間： 2007～2009
 課題番号： 19330031
 研究課題名 (和文) 移動と情報ネットワークの政治学—「帝国」と越境するマルチチュード
 研究課題名 (英文) Politics of Mobility and Information Network: The “Empire” and the
 Crossing Border by “Multitude”

研究代表者

加藤 哲郎 (KATO TETSURO)
 一橋大学・大学院社会学研究科・教授
 研究者番号：30115547

研究成果の概要 (和文) : 本研究は、研究代表者が長年進めてきた現代国家論研究と近年取り組んでいる情報政治研究の結節点で、経済のグローバル化と共に進行する国内政治の国際政治化、国際政治の地球政治化を解析した。モノ・カネ・ヒトが国境を越える「帝国」型グローバル政治の形成と、そのもとで進行する民衆の移動・越境・脱国家化の動きに注目し、既存の概念の変容と新しい課題を実証的な国際比較と歴史的・思想的系譜から考察した。

研究成果の概要 (英文) : This research focused on the internationalization of domestic politics and the globalization of international politics, at the cross of the long studies of state theory and the recent studies of information politics by the principal investigator. It treated the transformation of goods, money and individuals as the formation of global politics under the “Empire” and the cross border of people. We need the reexamination of principle concepts of nation state, civil society and public sphere in comparative and historical perspectives.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2008年度	6,900,000	2,070,000	8,970,000
2009年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
年度			
総計	15,000,000	4,500,000	19,500,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：(1) 国民国家, (2) 国籍, (3) 情報ネットワーク, (4) 帝国, (5) デモクラシー
 (6) 移民, (7) 亡命, (8) 外国人労働者

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景となったアイディアは、もともと3つの理論系列の示唆であった。

(1) 政治学・国際政治学の21世紀的展開、とりわけデーヴィッド・ヘルドラのデモクラシーとグローバル・ガバナンスの理論。そこ

では一国内部でも地球的規模でも「差異の承認・解放」が課題になり、マイノリティの処遇が「国際人権レジーム」として国際機関でも問題にされている。

(2)「移動の社会学」「移動の政治学」の流れ。ジョン・アーリ『場所を消費する』『社会を越える社会学：移動・環境・シチズンシップ』の問題提起は、「社会」を都市中心の定住空間と前提する近代市民社会論への、従って既存の政治学・社会学への挑戦で、移住による身体的移動に商品・貨幣や映像・メディアを介した感覚的移動、国外就労や観光旅行による情動の歴史の変容を加えると、「定住者＝市民」を前提にした政治は大きく攪乱される。

(3)アントニオ・ネグリとマイケル・ハートが『<帝国>』と『マルチチュード』で主張する地球的政治経済秩序の世界史的構造。彼らの提起した「生政治」や「帝国」「マルチチュード」概念を念頭において、欧米・日本の国籍・移民問題や社会運動における「国際主義」の歴史的展開を問い直した。

2. 研究の目的

(1)本研究は、研究代表者が長年進めてきた現代国家論研究と、近年取り組んでいる情報政治研究の、結節点に位置する。

(2)経済のグローバル化と共に進行する国内政治の国際政治化、国際政治の地球政治化を、定住を前提とした近代国民国家型政治の再編、モノ・カネ・ヒトが国境を越える「帝国」型グローバル政治の形成とみなし、そのもとで進行する民衆の移動に着目した。

(3)とりわけ越境・脱国家化の動きに注目して、「国籍」「国民」「市民」「市民社会」等の既存の概念がどのような変容をこうむり、どのような新しい課題を生み出すか、どのような新しい枠組みと発想・方法・概念を必要とするかを、実証的な国際比較と歴史的・思想的

的系譜に即して考察した。

3. 研究の方法

(1)本研究は、国際比較と歴史的・思想史的分析の方法を併用する。

(2)研究代表者が、欧米ばかりでなくインドや中国の研究者たちの協力をあおぎ、メキシコでは客員講義をしながら本研究プロジェクトは完成された。その間にリーマン・ショックによる世界金融・経済恐慌も経験した。

(3)共同研究には、国外ではアメリカ、イタリア、オーストラリア、中国在住の若手が、国内では北海道から沖縄まで各地に住む研究者たちが加わった。研究そのものがネットワーク型であり、それぞれの研究分担者・連携研究者・協力者の差異と個性が発揮できるよう心がけて報告書を作成した。

(4)共同研究は「政治を問い直す」を合い言葉に、政治学、社会学、哲学、歴史学など多様な領域から研究分担者・協力者を集めて行われた。それは、歴史と現実そのものが多様であり、「帝国」と「マルチチュード」も差異を孕んだ可塑的なものだからである。

4. 研究成果

2010年5-6月(2009年12月に出版が確定)に日本経済評論社から刊行された「政治を問い直す」全2巻が、ネットワーク型共同研究の成果である。

(1)第1巻は、加藤哲郎・小野一・田中ひかる・堀江孝司編『国民国家の境界』と題され、以下の論文が収録されている。(2010年5月刊行、264頁)。

序論 時間と空間から問い直す

田中ひかる・堀江孝司

①越境するシティズンシップとポスト植民地主義
大中一彌

- ②動揺する国民国家を受けとめる
丹野清人
- ③国民の歴史意識を問い直す
鳥山 淳
- ④公共圏の創出、拡大、変容
井関正久
- ⑤越境する政策と国際的な規範
堀江孝司
- ⑥越境するハウスホールド
稗田健志
- ⑦ドイツの移民・外国人政策
小野 一
- ⑧移民のいない日 (2006/5/1) の衝撃
高橋善隆
- ⑨国境を越える連帯
許 寿童
- ⑩国民国家を超える戦場への移動
島田顕
- ⑪人の移動と思想・運動の生成
田中ひかる
- (2)第2巻は、加藤哲郎・今井晋哉・神山伸弘編『差異のデモクラシー』と題し、以下の論文が収録されている(2010年6月刊行、264頁)。
- 序章 政治の境界と亡命の政治 加藤哲郎
- ①恐怖の政治と治安社会化 斎藤吉広
- ②N I M B Y問題の構造とデモクラシー
中澤高師
- ③ポピュリズムと熟議・討議デモクラシー
飯島伸彦
- ④自由による差異の承認 神山伸弘
- ⑤政治における普遍主義の限界と再生
鵜飼健史
- ⑥現代デモクラシーの起源 白井 聡
- ⑦労働者教育、社会的自助、公共圏への参加
今井晋哉
- ⑧ルディー・ベイカーの秘密の活動
岡本和彦
- ⑨60年安保闘争と「沖縄問題」
小野百合子
- ⑩「1968」をグローバルに語るということ
中川 圭
- (3)以上を通して、本共同研究が見出したものは、国民国家は動揺し、政治の境界も流動化しているが、国籍や人種・民族問題の重要

性は失われていない。移動や越境の具体的なあり方を規定するのは、それぞれの地域や国家のデモクラシーのあり方であり、その歴史的軌跡とそれを支える社会運動、情報・世論・メディア・コミュニケーションの変容こそ、21世紀の「差異の政治」を特徴づけているということだった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計43件)

- ①加藤哲郎、ゾルゲ事件の新資料—米国陸軍諜報部(MIS)『木元伝一ファイル』から、日露歴史研究センター『ゾルゲ事件関係外国語文献翻訳集』、査読無、25号、2010、40-56.
- ② KATO, Tetsuro, “Políticas de la pandemia en y Japan” (スペイン語)、”Bulletin CEEA”, 査読有、No. 7, 2009 (メキシコ大学院大学アジアアフリカ研究所紀要)、17-19.
- ③加藤哲郎、日本近代化過程におけるマルクス主義と社会主義運動の遺産、現代の理論・社会フォーラム『FORUM OPINION』、査読無、No. 7, 2009、21-27.
- ④田中ひかる、アメリカ合衆国におけるロシア系移民アナーキスト —1880年代から1920年代— (2009年度歴史学研究会大会報告近代史部会「帝国秩序とアナーキズムの形成—抵抗・連帯の想像力」)、歴史学研究会『歴史学研究』、査読有、859号、2009、96-105.
- ⑤丹野清人、外国人労働者問題の根源はどこにあるのか、労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』、査読有、587号、2009、27-35.
- ⑥丹野清人、官製雇用不安と外国人労働者、寄せ場学会『寄せ場』、査読有、22号、2009、36-52.
- ⑦丹野清人、総合デカセギ業が包み込むブラ

ジル人の労働市場、東京市政調査会『都市問題』、査読無、100巻3号、2009、60-67.

⑧丹野清人、日本の外国人労働問題、経済産業省エネルギー総合推進委員会『エネルギー問題研究所資料』、査読無、39号、2009、1-40.

⑨小野一、ドイツにおける中道保守連立への政権交代とその背景／連邦・州段階の深部で進行する政治的再編成の底流、労働運動研究所『労働運動研究』、査読無、408号、2009、56-62.

⑩小野一、ドイツ・赤緑連立政権の移民・外国人政策／政策転換と政党政治再編成をめぐる考察、日本比較政治学会『日本比較政治学会年報』、査読有、11号、2009、171-192.

⑪IZEKI, Tadahisa, Die "68er Generation" und "68er Debatte" in Deutschland: Eine Interpretation aus einer örtlich und zeitlich distanziierten Perspektive, Korean Journal of German Studies (Koreanische Gesellschaft fuer deutsche Geschichte)、査読無、Vol.17、2009. 41-64.

⑫井関正久、東ドイツ体制批判運動再考 - 『68年』と『89年』の関係を中心に、日本国際政治学会『国際政治』、査読有、157号、2009、70-84.

⑬田中ひかる、西川正雄氏と国際社会主義運動、ドイツ現代史研究会編『ゲシヒテ』、査読無、2号、2009、105-108.

⑭堀江孝司、福祉国家と世論、『人文学報』査読無、409号、2009、21-52.

⑮加藤哲郎、ゾルゲ事件の残された謎、『ゾルゲ事件関係外国語文献翻訳集』、査読無、19号、2008、1-15.

⑯加藤哲郎、「社会主義」中国という隣人、『葦牙』、査読無、34号、2008、101-107.

⑰小野一、ドイツ・左翼党の定着と連立政権の再編成／大連立か、「新しい」タイプの連立政権か、『労働運動研究』、査読無、404

号、2008、57-64.

⑱小野一、現代ベーシック・インカム論の系譜とドイツ政治、『レヴァイアサン』、査読有、43号、2008、113-128.

⑲小野一、ドイツの労働情勢と格差・貧困対策の現状、『北海道自治研究』、査読無、479号、2008、2-13.

⑳ONO, Hajime, The Low Fertility Problem and German Party Politics: An Unsuccessful Family-Political Regime Change under the Red-Green Government、『工学院大学共通課程研究論叢』、査読無、46巻2号、2008、1-18.

㉑大中一彌、ポスト植民地主義期における社会と国家-現代フランス政治における移民問題を手がかりに-、日本政治学会『年報政治学』、査読有、2008年1号、2008、82-108.

㉒井関正久、ドイツにおける「68年」論争の展開 - 40周年を迎えて何が問題となっているのか、津田塾大学『国際関係学研究』、査読有、35号、2008、43-53.

㉓堀江孝司、福祉イメージの政治、『人間文化研究所年報』、査読無、3号、2008、5-8.

㉔堀江孝司、少子化問題をめぐるアイディアと政治、『人文学報』、査読無、394号、2008、1-29.

㉕岡本和彦、スペイン内戦期のユーゴスラヴィア共産党チトー指導部確立との関連で、『東京成徳大学人文学部研究紀要』、査読無15号、2008、39-49.

㉖小野一、ドイツ・赤緑連立政権の移民・外国人政策／政策転換をめぐる一考察、一橋大学教育研究開発センター『人文・自然研究』、査読無、2号、2008、269-287.

㉗高橋善隆、ソーシャル・ユニオニズムと現代アメリカ政治-ヒスパニック系移民の動向を中心に、『跡見学園女子大学人文学部紀要』、査読無、41号、2008、77-92.

㉘丹野清人、在留特別許可の法社会学／日本

で暮らす外国人の法的基礎 『大原社会問題
研究所雑誌』、査読有、582号、2008、1-40.

⑳加藤哲郎、グローバルな地球社会のナショ
ナルな国家、『世界と議会』、査読無、518号、
2007、14-18.

㉑加藤哲郎、情報戦のなかの『亡命』知識人
—国崎定洞から崎村茂樹まで、『インテリジ
ェンス』、査読無、9号、2007、29-46.

㉒田中ひかる、誰が“ロシア人アナーキスト”
だったのか？—ロシア革命前後のアナー
キストたち—、『初期社会主義研究』、査読無、
20号、2007、151-175.

㉓ONAKA, Kazuya, Quel sens peut-on donner
à la recherche étymologique en philosophie
politique ? Sur l'usage maoïste du terme
"contradiction", 『異文化』、査読無、8号、
2007、31-51.

㉔井関正久、「西ドイツにおける抗議運動と
暴力—『68年運動』と左翼テロリズムとの
関係を中心に」、日本比較政治学会『日本比
較政治学会年報』、査読有、第9号、2007、
177-197.

[学会発表] (計12件)

①井関正久、西ドイツ「68年運動」の正の遺
産・負の遺産、イタリア近現代史研究会全国
大会、2010年3月27日、お茶の水女子大学

②KATO, Tetsuro, Japan in Global Crisis,
メキシコ大学院大学主催、在メキシコ日本大
使館・国際交流基金後援国際シンポジウム
「ラテンアメリカにおける日本研究」招待記
念講演、Sept. 2, 2009、El Colegio de Mexico,
Mexico City, Mexico

③田中ひかる、アメリカ合衆国におけるロシ
ア系移民アナーキスト—1880年代から1920
年代—、歴史学研究会研究大会、2009年5月
24日、中央大学

④小野一、ドイツ・大連立をめぐる政党政治

論的分析／移行期レジームか、政界再編成の
終着点か、日本政治学会(分科会C)、2008
年10月11日、関西学院大学

⑤ Tetsuro KATO, Embracing Affluence;
Values and Politics in Postwar Japan,
International Conference on India-Japan
and Asia, 2008年9月26日, India
International Centre, New Delhi, India

⑥田中ひかる、西川正雄氏と国際社会主義運
動、ドイツ現代史学会、2008年8月2日、神
戸大学

⑦加藤哲郎、戦後日本の政治意識、日中共同
国際シンポジウム「中国の格差、日本の格差」、
2008年5月18日、一橋大学

⑧加藤哲郎、機動戦・陣地戦から情報戦へ：
アントニオ・グラムシを超えて、グラムシ没
後70周年記念国際シンポジウム、2007年12
月2日、明治大学リバティタワー

⑨高橋善隆、ソーシャル・ユニオニズムと現
代アメリカ政治—ヒスパニック系移民の動
向を中心に、全国政治研究会、2007年10月
5日、法政大学ボアソナードタワー

⑩堀江孝司、日本の少子化をめぐるアイディ
アと政治、比較政治学会、2007年6月24日、
同志社大学

⑪小野一、少子化の比較政治学——ドイツの
場合、比較政治学会、2007年6月24日、同
志社大学

[図書] (計17件)

①加藤哲郎、小野一、田中ひかる、堀江孝司
編著、国民国家の境界、日本経済評論社、2010、
264

②加藤哲郎、今井晋哉、神山伸弘編著、差異
のデモクラシー、日本経済評論社、2010、
264(1-21)

③小野一、ドイツにおける「赤と緑」の実験、
御茶の水書房、2010、374

- ④加藤哲郎、「ハーン・マニアの情報将校ボナー・フェラーズ」、平川祐弘・牧野陽子編『講座 小泉八雲 I ハーンの人と周辺』、新曜社、2009、728 (597-607)
- ⑤加藤哲郎、「戦後日本の政治意識と価値意識」、渡辺雅男編『中国の格差、日本の格差』、彩流社、2009、292 (121-139)
- ⑥丹野清人、(共立総合研究所と共編)、国際的な人材活用：外国人労働者受け入れガイドブック、共立総合研究所、2009、40
- ⑦堀江孝司、「少子化問題と専門知」、久米郁男編『専門知と政治』、早稲田大学出版部、2009、218 (83-113)
- ⑧加藤哲郎、ワイマール期ベルリンの日本人、岩波書店、2008、358
- ⑨加藤哲郎、國廣敏文共編著、グローバル化時代の政治学、法律文化社、2008、260(107-132)
- ⑩加藤哲郎、「ヴァイマール・ドイツの日本人知識人」、工藤章・田嶋信雄編『日独関係史』第3巻、東京大学出版会、2008、324(1-53)
- ⑪加藤哲郎、情報戦の時代、花伝社、2007、356
- ⑫加藤哲郎、情報戦と現代史、花伝社、2007、407
- ⑬丹野清人、越境する雇用システムと外国人労働者、東京大学出版会、2007、328
- ⑭丹野清人、「創り出される労働市場—交錯する求職ネットワーク」樋口直人他著(5名、3番)、『国境を越える／滞日ムスリム移民の社会学』、青弓社、2007、278 (62-82)
- ⑮岡本和彦、「スペイン内戦とユーゴ人義勇兵」、川成洋他編、『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』、南雲堂フェニックス、2007、504 (146-158)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 哲郎 (KATO TETSURO)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：30115547

(2) 研究分担者

田中 ひかる (TANAKA HIKARU)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：00272774
丹野 清人 (TANNO KIYOTO)
首都大学東京・都市教養学部・准教授
研究者番号：90347253
堀江 孝司 (HORIE TAKASHI)
首都大学東京・都市教養学部・准教授
研究者番号：70347392
小野 一 (ONO HAJIME)
工学院大学・工学部・准教授
研究者番号：80306894
岡本 和彦 (OKAMOTO KAZUHIKO)
東京成徳大学・人文学部・准教授
研究者番号：30365001
井関 正久 (IZEKI TADAHISA)
中央大学・法学部・准教授
研究者番号：20343105
大中一彌 (ONAKA KAZUYA)
法政大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：60434180

(3) 連携研究者

高橋 善隆 (TAKAHASHI YOSHITAKA)
都留文科大学・文学部・兼任講師
研究者番号：00405094
(H19:研究分担者)

(4) 研究協力者

鳥山 淳 (TORIYAMA ATSUSHI)
琉球大学・法文学部・非常勤講師
研究者番号：60444907
島田 顕 (SHIMADA AKIRA)
関東学院大学・経済学部・非常勤講師
許 寿童 (XU, SHOU TNOG)
中国汕頭大学・法学院・准教授